

Next

発行所 一般社団法人 茨城県建設業協会
建設未来協議会

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22
電話 029 (221) 5126 (代)

ホームページ <http://www.miraikyo.com>

発行人 梅原基弘

編集 日本工業経済新聞社水戸支局

平成26年度基本方針

建設未来協議会 会長 梅原基弘

～建設産業の現状と課題～

今、「アベノミクス」と言われる経済対策が打ち出され、ようやく日本全体には明るさを感じられるようになってきました。しかし、建設業界は公共事業削減で資機材も人材も合理化してしまい、震災復興・大型補正予算による公共事業の現場では、昨年一年間の都道府県発注工事における入札不調・不落の発生率は7.8%となり、一昨年前より2.9ポイントの増加となっており厳しい需給関係が続いております。

国会では、公共工事品質確保法、入札・契約適正化法、建設業法の三位一体改革が審議され、担い手確保や多様な入札契約方式の導入、ダンピング防止等の改善が進行中であり

昨年度実施された、労務単価の引き上げ共々大いに期待するところであります。

経営者として本音を述べさせていただければ、この三位一体改革とも併せ、日本経済再生の後、行政機関による継続的な予算確保と執行、中長期の見通しを示していただく。この事が企業としての設備投資、人材確保そして事業継続への適正な利益確保となり大きな



活力向上になると期待してやみません。

～地域社会への貢献と奉仕～

建設産業のイメージアップそして入職には一朝一夕ではいかず、更なる『建設産業の見える化』が必要であると考えます。

私たちは「建設フェスタ」にて、未就学児から、小学生・中学生にそして保護者の方々に「建設産業の意義と魅力」を伝えてまいりました。

今年も、県民へ影響力が大きいテレビ・ラジオ・新聞・雑誌等のマスコミへの働きかけ

はもちろんですが、情報化社会と言われる現代においては、若者に利用の多い、フェイスブックなどのソーシャルメディアの活用と、YouTubeなどの動画サイトの活用の他、茨城県が運営するインターネットTV「いばキラTV」での配信などの手法を駆使し世間一般の方々へメッセージを発信し「建設フェスタ2014」を開催いたします。

また、新たに県内保育園の砂場清掃活動を通じ園児たちが「安心して遊べるよう」また、「建設産業に見て触れて興味を持っていただけるよう」事業展開を始めます。

～建設業の広報戦略～

事業承継はもとより、建設投資や過剰供給構造による受注競争の激化、就労環境の悪化や若年入職者不足等の諸問題を抱え建設産業界を取り巻く環境を改善するに必要なものは「人材」です。特に、次世代を担う若手技術者・技能者の就業確保は大きな課題であり、「高校・専門・大学生」を対象とした現場建学会・現場実習の開催は入職促進に向けた大きな責務だと考えております。

また、学校・教員との連携として定期的な意見交換会を開催するなどにより、教育機関との連携強化を図ります。そして、建設業従事者の安定した生活の確保に向けた雇用改善にも取り組みます。

～防災力の強化のため官民連携～

戦後の高度成長期に整備された道路・橋梁・ダム・堤防、そして国民生活に直結する上下水道の老朽化が進み、維持・更新が叫ばれております。国土交通省によると10年後には現在の年間約3兆6000億円の1.2倍～1.4

倍、20年後には1.3倍～1.5倍に増加すると見通しており、新設工事の縮減と維持・更新工事の増大が明確であり、「地域を守っていく地元建設業」として新設工事と維持・更新工事の両輪を軸とした企業経営が必要であり、我々地元建設業者も、アセットマネジメント技術の研鑽に努め、安心安全なまちづくりに官民共に取り組まなければならないと考えます。

～全国大会対応準備委員会～

各県の若手経営者で構成される、全国建設青年会議全国大会が本年12月1日に関東建設会議が主幹（栃木県主幹県）のもと、東京新宿で開催されます。

当協議会は、副主幹県という立場で関わり記念講演及びパネルディスカッションの企画運営、懇親会の設営と全国大会を成功裡に収めるために準備させていただきます。

今年度も、事業計画に基づき4つの常設委員会と1つの特設委員会、そして6つの地区会にて積極的に活動をさせていただきます。

建設未来協議会は、会員企業が信頼と言う強いネットワークのもと切磋琢磨し、経営と技術を研鑽し、「雇用と納税」により社会に強く貢献しそして、「地域を守っていく地元建設業」として『良い仕事をし、顧客の信頼を得る』この事に専念し、安心安全なまちづくりに官民共に取り組み県民より「信託」を得ることであると思っております。

昨年同様、1年間責務を全うさせていただきますので、今年度も当協議会の運営に協会本部・会員並びに関係各位の皆様方の更なるご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

次代の扉ひらく経営者 飛躍へ決意

— 20周年記念し式典、講演、パネル展示を開催 —

20周年記念事業実行委員会 委員長 増子 秀典

平成5年に諸先輩方が立ち上げた「茨城県魅力ある建設事業推進協議会」が設立20周年を迎えました。

のちの「建設未来協議会」が設立20周年を迎えるにあたり、特設委員会として『20周年記念事業実行委員会』を設け、平成25年5月29日に第1回目の実行委員会を開催し、3つの事業を柱に活動することを決めました。

1つ目は20周年を記念した「記念誌の制作及び発行」です。

テーマを「OPEN THE NEXT DOOR」～時代の扉を拓く～とし、諸先輩方が歩まれた20年間の軌跡を振り返り、これまでの事業活動を形に残し、今後の本会活動の参考となるようにとの想いで作成いたしました。

記念誌の制作には過去20年に亘る記事や写真が必要で、15年以上前の記事や写真が極端に少ない為、編集作業にはとても苦労しましたが、日本工業経済新聞社様や実行委員会メンバーのご協力もあり、何とか編集を終わらせることができました。発行にあたりましては大富印刷様にバランスよく作る為に色々なアドバイスをもらいました。



記念誌「OPEN THE NEXT DOOR」

皆様のご協力のおかげで、すばらしい記念誌を発行することが出来たと共に、現役メンバーの皆様には20年の歩みを知る機会として、今後の活動のお役に立てる事と思います。

2つ目は「震災復興等に関するパネル展示会の企画・運営」です。

3.11の東日本大震災から3年が経過するにあたり、あの時の事を風化させてはいけないという願いを込めて、平成26年2月10日～3月29日までの間、茨城県内5か所の集客力のある百貨店等で、3.11大震災の災害状況や、復旧、復興などをパネル化し展示しました。その際にはアンケート調査を並行して行い、各地区メンバーの協力は元より、茨城県土木部様や国土交通省関東地方整備局



20周年の節目を祝いました

常陸河川国道事務所様など行政からもご協力を賜り、約1,200名の方々にアンケートへの回答をして頂きました。

アンケート結果を見てみると、我々建設業は地元で「なくてはならない存在」と感じてもらっている一方、復旧、復興活動のほとんどを自衛隊が行ったと認識され、我々建設業が不眠不休で復旧、復興活動した事実が一般の方々にはあまり知られていないという現実もあり、今後の我々の課題が見えましたが、今回の展示会を開催した事で、我々の活動などを一般の方々に広く理解して頂いたと感じています。

3つ目は「設立20周年記念式典及び講演会」の開催です。組織の充実化を図るとともに、融和親睦を深めることを目的として計画しました。平成26年2月14日の式典にはご来賓の方々やOB、現役メンバーなど多くの方に出席頂きました。

また、記念講演として東日本建設業保証(株)茨城支店様のご後援の下、経済評論家の三橋貴明様をお招きし「日本経済ダメ論のウソ！日本経済の強さ」と題してご講演いただきました。終了後には懇親会を開催し出席者各位の親睦を深めることが出来たと思います。



経済評論家、三橋氏による講演が行われました

皆様のおかげで記念式典が盛大に開催することができましたことを、実行委員会を代表して御礼申し上げます。また、1年間という期限付きの特設委員会ではありましたが、実行委員会のメンバーと活動できたことをとても誇りに思います。そして心より感謝申し上げます。

最後に本会が益々発展し、50年、100年と続くことを切に希望し、『20周年記念事業実行委員会』の1年間の報告とさせていただきます。

本当にありがとうございました。



震災復興等に関するパネル展示

平成26年度 第22回定時総会を開催

総務委員会 副委員長 櫻井 俊一

本協議会の第 22 回定時総会が 5 月 9 日、ホテル・ザ・ウエストヒルズ水戸にて会員 56 名、茨城県より藤枝宏之土木部総括技監、関東地方整備局より水島徹治常陸河川国道事務所長、(一社)茨城県建設業協会から石津健光副会長など多数のご来賓の方々の出席のもと盛大に開催されました。

冒頭、梅原会長より「信頼というネットワークをもとに、互いに切磋琢磨し技術と経営に研さんし、雇用と納税を通じて社会に貢献していきたい。その上で明るい、そして安心安全なまちづくりにまい進していきたい」と挨拶。来賓からは石津副会長より、国会における品確法や建設業法、入契法の審議状況に触れたあと「品確法は適正な利潤が得られるよう、予定価格の適切な設定を発注者に義務づける画期的な内容。一方で技能者確保が喫緊の課題。そのためにも労働環境の改善が責務となる。社会貢献など一丸となって活動してまいります」と御祝辞をいただきました。

議事では 5 議案について慎重審議し、全会一致で原案どおりに可決。本年度も研修会等を通じて会員各社の技術力の向上を図るとともに、建設フェスタによる建設業の PR 活動、専門学生・高校生を対象とする現場実習、現場見学会等を通じ、社会貢献活動を実施することを確認しました。

議事終了後の来賓挨拶では、藤枝土木部総括技監より「若年入職者が減少する中、建設産業のイメージアップ活動に感謝するとともに、建設フェスタや現場実習・現場見学会など、これからもご尽力いただきたい」と御祝辞をいただきました。続いて、水島常陸河川国道事務所長より「着任して一番驚いたことは茨城の震災による被害。次に県内を回ると、ほとんど復旧されていることに驚いた。皆さんが相当苦労されたと思う。今後も皆さんが元気であれば地域も元気になる。さらなる活躍に期待したい」と激励の御祝辞をいただきました。

第二部では、東日本建設業保証(株)茨城支店様の御協賛のもと、元国土交通省事務次官で、現在一般財団法人国土技術研究センター理事長である、谷口博昭様をお招きし「これからの社会資本整備と若手経営者の役割」という演題のもと記念講演を開催しました。講演で



総会では26年度の事業計画などを決定しました



茨城県建設業協会の石津副会長



茨城県土木部の藤枝総括技監



国土交通省関東地方整備局
常陸河川国道事務所の水島所長



講師の谷口博昭
元国土交通省事務次官

は、公共事業が時代とともに変化してきた背景や、復興から日本再興へ・国土強靱化政策・これからの建設ビジネス等々多義にわたる貴重なお話をお聞きする事が出来ました。また会員からの質問にたいしても熱心に御回答いただき、非常に有意義な講演会となりました。

平成 26 年度も建設未来協議会の活動に関しまして、関係各位皆様の御指導・御協力のほどよろしくお願いいたします。

現場見学会・現場実習を開催 高校生などが建設業を体感！

人材育成委員会 委員長 大橋 一博

人材育成委員会は、CCI活動の一環として発注者や会員の皆様のご協力を得て、将来を担う若い人たちに建設業への理解と関心を深めてもらい若年層の入職促進を図るため、県内の高校生や専門学校生、大学生を対象とした建設現場見学会と現場実習を毎年実施しております。

現場見学会は、高校、専門学校、大学などの8校から合計469名が参加し、9月から11月にかけて10回に分けて開催し、石岡一高、水戸農業高校管理棟改築工事や茨城港日立港圧ケーソン製作工事、藤が原アパート、LNG基地建設工事などの大型プロジェクトを肌で感じていただきました。

実際に現場に立った生徒たちは、一人一人熱心に見学しながらも現場担当者に事細かく質問をして、将来に役立つように見学していました。また現場担当者も丁寧に受け答えに応じて頂き、有意義な現場見学会になったと生徒達も感謝しております。



現場実習状況



藤が原アパート建設の現場見学会

現場実習は7月から9月まで、会員31事業所が、高校4校57人、専門学校3校41人を受け入れて実施しました。各事業所が3日間現場の状況や建設業の役割を説明し、測量、設計CAD、生コン打設などを実際に体験してもらいました。

参加した学生からは「授業では体験できないことが出来て良かった」「将来の参考になった」などの声がよせられました。

昨年からの建設業を取り巻く環境は大きく変動している中、将来の人材確保や人材育成は必須の課題であります。そんな中、皆様のご協力等もあり今年度の新卒者の採用は、昨年度よりもアップすることが出来ました。

最後に、この企画にご協力頂きました国土交通省、茨城県土木部検査指導課、及び、実習生・見学生を快く受入れて頂きました企業の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後ともご支援ご協力をお願いいたします。

「建設フェスタ2013」を開催!!

地域貢献活動委員会 委員長 大曾根 理一郎

昨年の 10 月 27 日、日曜日に第 20 回目となる「建設フェスタ 2013」を開催致しました。会場は今回初めて、ひたちなか市にある「笠松運動公園」を利用させて頂きました。開催日の前日まで続いた台風の影響により、当初は開催を危ぶむ状況にありましたが、会員の皆様はじめ、関係各位のご協力により、どうにか開催する事が出来ました。当日は初めての開催場所にも係わらず、15,500 人ものお客様にご来場いただき、来場者数と致しましては史上 5 番目、過去 7 年では最も多い来場者数となりました。



建設作業体験リレー

現在では「建設未来協議会」のメインイベントとなっているわけですが、これまでの道のりは決して平坦な道のりではありませんでした。

第 1 回目の来場者数は 2,000 人、第 2 回目に至っては 1,000 人足らず。バブル崩壊後は協賛金の激減。それに伴い会場の確保も難しくなっていた中で、今もこうして継続出来ているのは、先人達の努力と現会員の皆様のご協力のおかげなのだ、開催当日の朝まで汗と泥にまみまれて準備してくれた会員の皆様の姿をみてそうつくづく感じました。「建設フェスタ」の開催目的は、今更ではありますが、「次世代を担う子ども達に向けて、生活・社会基盤の整備を担う建設産業の魅力を楽しく理解してもらうため」となっております。昨今の我々建設産業の最大の課題の一つであります「就業者の確保」、又は「建設産業に対する正しい理解」の一助となるべく、これからも継続していかねばなりません。

さて、「建設フェスタ 2013」の催事内容についてですが、昨年とほぼ同じ催事内容となりましたが、新しい催事(企画)も加わりました。その内の 1 つとして、「海(水)の工事技術」と題し、これまでの「建設フェスタ」では PR されていなかった「海洋(水)土木」に関するブースを、関係企業の協力を得て設置致し

ました。一般市民の方々にとっては、「建設」というキーワードからは、恐らく「道路・橋・トンネル」といった、主に陸上施設を連想されるのではないかとと思いますが、この企画によって「建設」の幅の広さを少しは感じて頂けたのではないかと思います。

人気の高い催事内容としては、毎年一緒ですが「参加型・体験型」の催事が最も高く、消波ブロック製作体験、建設機械の運転体験等の受付には長い列が出来ました。実際に触れ、感じる事で、子ども達の心の片隅に良い思い出として残ってくれたなら幸いです。その他の催事として、地元の「堀川保育園」の園児による「マーチングバンド」にも参加して頂きました。幼い子ども達の愛らしい姿に、多くの皆様が心和むひと時を過ごす事が出来たのではないのでしょうか。



建設機械の運転体験などに長蛇の列が出来ました

最後になりますが、「建設フェスタ 2013」にご協力頂きました会員の皆様、また茨城県土木部をはじめとした関係機関の皆様には改めて御礼申し上げます。これからも「建設フェスタ」を我々建設産業と一般市民の方々との交流の場。そして情報発信の一大イベントとして継続していく事が、延いては建設産業の発展に繋がるのではないかと考えております。

皆様におかれましては、今後も変わらぬご協力、ご指導、ご鞭撻を賜ります様宜しく御願ひ申し上げます。



地元園児によるマーチングバンド

中学生スタッキングハウス製作体験学習

～高萩市立松岡中学校にて開催～

高萩・太田地区幹事 鈴木 達二



平成 25 年度の C C I 茨城（「茨城県魅力ある建設業推進連絡会議」）「建設業体験学習」は、10 月 17 日と 30 日の 2 日間、高萩市立松岡中学校の 2 年生 67 名を対象に実施しました。

1 日目は全員を 3 班に分けてログハウス風木造倉庫（スタッキングハウス）基礎工事と、測量作業、そして「直角三角形コンテスト」を交代で行いました。生徒たちは普段目にするものがない基礎の構造や、生コンクリートの感触、測量機器で瞬時に距離や角度が測定できる様子に興味津々の様子でした。

2 日目はスタッキングハウス組立作業と重機操作体験を 1 クラスずつ交代で実施しました。スタッキングハウスは角材を 1 段ずつ積上げて固定していく方式。はみ出した接着剤も締めすぎたナットも

お構いなしで、順調に組み上がっていきました。小型バックホウ 3 台を使っての重機操作体験では実際に掘削や整地の作業を体験。自分の操作でアームが動く様子に生徒たちは目を輝かせていました。

完成したハウスは生徒たちの公募により「松ログ」と命名され、12 月 4 日の引渡式を経て学校へ寄贈されました。その後体育倉庫として有効活用されているとのことです。

今回体験学習に参加した生徒たちの中から建設業に興味を持ち将来建設産業に携わる仲間が一人でも多く出てきてくれることを願うと同時に、体験学習にご協力いただきました茨城県土木部検査指導課、茨城県建設業協会を始め多くの関係者の皆様に心より感謝申し上げます。



委員会紹介

総務委員会

担当副会長 菊地 和幸

委員長 吉田 長邦

総務委員会は、5月9日に開催いたしました、定時総会の企画・運営をはじめ、茨城県土木部及び国土交通省関東地方整備局との意見交換会を開催しております。季刊誌 NEXT の発行並びに当協議会のホームページの企画・更新管理、また会員名簿の作成や毎年11月に開催しております親睦行事など、委員会活動は多岐にわたっております。会員各位への連絡調整及び情報の提供に努めるべく、委員会メンバー全員が一丸となって、活動しております。会員各位のご協力を心からお願い申し上げます。

<今年度の主な事業>○総会、役員会の企画運営 ○季刊誌 NEXT の企画・編集・発行
○未来協議会ホームページの企画・管理・情報発信 ○未来協議会の予算決算に関する業務
○会員名簿の作成 ○各発注機関との意見交換会の開催及び運営 ○親睦行事等の開催及び運営
○各委員会、地区会、会員への連絡調整、情報提供



懇親ゴルフ

地域貢献活動委員会

担当副会長 山崎 剛

委員長 大首根 理一郎

我々地域貢献活動委員会の担当事業は、これまで主に「建設フェスタ」の企画・運営を行って参りました。「建設フェスタ」は我々建設業本来の事業活動による地域貢献（インフラの整備及び維持）又は緊急活動による地域貢献（災害対策及び支援）をPRする場でありました。今年度は地域貢献活動のPRだけではなく、新たに「砂場クリーン作戦」と題し、保育園等の砂場清掃を行い、子供達に安心して遊べる砂場環境を提供するという直接的奉仕活動による地域貢献活動も行う予定です。今年度も皆様のご協力を宜しく御願い申し上げます。

<今年度の主な事業>○建設フェスタ 2014 の企画・運営
○献血・骨髄バンク登録事業への協力 ○保育園等の砂場清掃奉仕活動



建設フェスタ2013/ミニ上棟式

人材育成委員会

担当副会長 鈴木 勝彦

委員長 大橋 一博

人材育成委員会は、高校生・専門学生を対象に、現場見学会や現場実習を通して、今後の建設業を担う学生の皆様に建設業の魅力や必要性を正しく理解して頂くことを第一に考え、日々活動しております。

現場見学会においては、茨城県内で進行中の建設事業を実際に見て進路の参考にして頂き、現場実習においては、若年建設従事者入職促進事業の一環として、対象者を協会本部会員企業とともに、建設未来協議会会員企業が受け入れ、工事現場の仕事を実際に体験して頂き、現場見学会とあわせて、対象者が近い将来における職業選択の糧となるよう委員一丸となって活動してまいります。

<今年度の主な事業>○高校生・専門学校生の現場見学会の実施 ○高校生・専門学校生の現場実習の実施 ○建設業従事者の雇用改善 ○若手技術者育成のための講習会の開催



建設現場見学会

建設システム委員会

担当副会長 端 利一

委員長 小林 圭一

建設システム委員会の事業内容は、大規模災害に備えた防災力強化のシステム作りと、講習会の開催です。会員企業の災害発生時の応急復旧体制の調査及び事業継続計画（BCP）の取得に向けての助成や、老朽化したインフラの長寿命化、耐震化の講習会の開催を予定しております。又、行政機関と応急復旧工事やインフラの維持管理の意見交換を行うなど、地域の安全、安心を担う建設業者であるため、さまざまな防災活動に取組んで参ります。

<今年度の主な事業>○大規模災害発生時の災害協定強化への調査・提言
○会員企業への事業継続計画（BCP）の啓蒙・取得推進 ○インフラの長寿命化の研究及び講習会の開催



事業継続計画(BCP)導入セミナー

全国大会対応準備委員会（平成26年度特設委員会）

委員長 増子 秀典

各県の若手経営者で構成される、全国建設青年会議全国大会が、本年12月1日に関東建設青年会議主幹の下、東京（新宿）にて開催されます。

本会は、副主幹県と言う立場で関わり、全国大会を成功裡に収めるべく準備させていただきます。

<今年度の主な事業>

○全国建設青年会議全国大会（東京）への対応

茨城県土木部との意見交換会を開催

総務委員会 副委員長 長山 朋之

平成 25 年 11 月 18 日 (月) 茨城県建設業協会 5 階大会議室において、茨城県土木部と建設未来協議会の意見交換会を開催しました。

茨城県土木部から小林政弘技監兼検査指導課長、石井秀雄主席検査監をはじめ監理課、検査指導課、道路維持課から多くの方々が出席下さいました。

冒頭、梅原会長は「我々が現在抱えている問題として、工事を受注する前後における下請業者・資材の確保が困難である。将来に向けた問題として、就労人口の高齢化により技術の継承ができず、維持管理に対する施工体制が整わないといったことが挙げられる。意見交換会で我々の生の声を理解して頂き、友好的なご意見を賜りたい。」と挨拶されました。

続いて、小林技監兼検査指導課長より「地域の安全安心を確保するためには皆様の力が必要である。地域の社会基盤整備の担い手として力をつけてもらうためにも、さらなる技術向上に努めてもらいたい。意見交換会により、皆様の悩みを少しでも解消できればと思う。」と挨拶を賜りました。

意見交換会は、茨城県土木部、建設未来協議会双方の情報提供に始まり、建設未来協議会会員が日頃抱えている問題・課題についての意見交換をフリートーキング形式で行いました。

監理課・検査指導課からの情報提供として

- ・ 社会保険等未加入対策について
- ・ 技能労働者への賃金確保について
- ・ 事故防止について
- ・ 再生アスファルトの利用促進について

建設未来協議会からの情報提供として

- ・ 建設未来協議会の活動について

・ 公共工事設計労務単価や若年労働者の入職等についてのアンケート調査結果について

意見交換として

・ 現場管理に関する事例の紹介

①設計について、②受発注者間の打合せについて、③仮設工について、④共通仮設について、⑤品質管理について

・ 今後の維持管理工事に関する、発注者側の考え方と企業側の取り組み

以上の内容について話し合い、茨城県土木部の皆様から前向きで有意な回答をいただくことができ、意見交換会を終えることができました。

この意見交換会は、発注者・受注者双方が問題・課題提起をし、共有することで、よりよい建設業へ向けて共進していくことのできる場のひとつであります。茨城県土木部へ少しでも多くの意見・要望を提起するためにも、今後とも会員の皆様にはご協力をお願い致します。



関東地方整備局常陸河川国道事務所との意見交換会を開催

総務委員会 河野 真

平成 25 年 11 月 25 日 (月)、国土交通省常陸河川国道事務所会議室において、発注者と受注者双方が抱える諸問題の改善に向けて取り組むことを目的に、意見交換会を開催しました。常陸河川国道事務所より久保田事務所長、辰野副所長 (技術)、大野副所長 (技術)、工事発注担当課長等が、そして国営常陸海浜公園事務所からは箕作事務所長が、建設未来協議会からは梅原会長をはじめとする、役員の方々に参加致しました。

冒頭のあいさつで、久保田事務所長より「私共と皆様方とはパートナー」ということでございまして、工事を通じて或いはそれ以上のことも通じて大変お世話になっているわけで、御礼を申し上げる次第でございます。現場で何が起きているのか、ということが課題になっているのかということ現場で意見交換しあうということは非常にいい機会だと思います。東日本大震災の対応でよりいっそう地域の建設業と我々というのは一緒になってやっていかなければならないと感じました。地域防災力の維持向上という点で現場事務所が大きな役割を果たしているということの PR を進めていかなければならない

と思っております。伊豆大島で大きな災害があり、TEC-FORCE という形で報道され我々のいい PR にもなったと思います。一方、皆様方を見ますと、例えば東日本大震災におきまして献身的な事業に違わず、工事をして献身的な努力があつて復旧できたわけですが相変わらず知られていないのではないかとと思われるところもあります。この間の建設フェスタなどもいい機会だと思います。今日は有意義な意見交換をお願いします。」とのご挨拶を賜りました。

意見交換会に先立ち、事務所側から

①品質管理基準及び規格値の改訂

②新技術の活用促進及び活用効果調査表 (報告書) の提出

③詳細設計付工事発注方式等による工事請負契約の予算決算及び会計令第 85 条の基準の一部運用改正

④工事の不調・不落

⑤関東地方整備局における発注事務に係る綱紀保持の取組み

⑥平成 25 年度大規模津波・地震防災総合訓練

についての情報提供を頂きました。また、協議会側からは、

①建設ふれあい祭りについての説明を致しました。続いての意見交換会では以下の内容について意見交換を行いました。

I. 入札・契約について

- ①契約時のやりとりについて②契約関連書類の処理や請求について③会社及び技術者の施工実績の遡り年数について④入札説明書に対する質問と回答の期限について⑤総合評価の評価点について⑥落札決定の通知期間について⑦予定価格について⑧入札制度の変更について

II. 設計図書について

- ①設計書の記載方法について②詳細設計書の提示期限について③設計図書について④大幅な設計変更について⑤その他

III. 現場管理について

- ①関係機関との調整について②発注者側の意思決定について③書類の作成について

IV. 完成図書について

- ①施工書類の簡素化について



V. その他

①社会保険未加入対策について②情報共有システムについて
以上の項目について具体的な事例を交えながら双方の意見を交換しました。
質疑応答などでも様々な意見があるなか事務所側からも親身に答えて頂き、全体を通じて、協議会側から頂いた意見・提案は、上部機関等に伝えて行くこととし、今後ともコミュニケーションの向上を図ることを確認して意見交換会を終了致しました。

● 平成25年度入会者

地区	氏名	商号	郵便番号	住所	電話番号	FAX番号
鹿行	根本 剛	(株)根本工務店	311-3811	行方市四鹿 1	0299-73-2037	0299-73-2192
県西	石嶋 尚	(株)石島建設	307-0001	結城市結城 3187	0296-32-2333	0296-33-0539
県西	田所 大和	(株)ワイエスケイ	308-0041	筑西市乙 836	0296-25-0005	0296-24-2272
県西	堀江 平	堀江産業(株)	308-0847	筑西市玉戸 1080	0296-28-1033	0296-28-2401
鹿行	松崎 陽樹	(株)松崎土木	311-2446	潮来市須賀南 117	0299-63-0377	0299-63-0379
鹿行	茂木 充史	水郷建設(株)	311-2435	潮来市上戸 2013	0299-64-2743	0299-64-2742
鹿行	鍋木 大輔	鍋木建設(株)	314-0408	神栖市波崎 6487	0479-44-4111	0479-44-4112
水戸	下田亜紀子	菅原建設(株)	310-0804	水戸市白梅 1-2-33	029-224-6561	029-224-6368

● 平成26年度入会者

地区	氏名	商号	郵便番号	住所	電話番号	FAX番号
鹿行	石津 松吾	石津産業(株)	314-0012	鹿嶋市平井 861	0299-82-2335	0299-82-0327
鹿行	犬塚 正一	(株)和城産業	314-0021	鹿嶋市粟生字東山 2303	0299-82-5931	0299-83-7737
鹿行	城内 浩和	(株)大平工業	314-0011	鹿嶋市港ケ丘 282-139	0299-83-6673	0299-83-6674
大宮・大子	高野 弘康	(株)高野工務店	319-2102	那珂市瓜連 610-1	029-296-0024	029-296-0788

卒業された皆さん

地区	氏名	商号
水戸	大貫 茂男	(株)大貫工務店
水戸	木村 晃	大昭工業(株)
鹿行	田口 年彦	(株)田口建設工業
鹿行	菱木 勝夫	(株)菱木土建
県南	伊藤 孝司	(株)伊藤建設
県西	志賀野明範	アキラ建設(株)
県西	初沢 真一	初沢建設(株)

編集後記

最近では、男性より女性のほうが何事にも積極的な印象をうけます。つい先日もある男子大学生は「自分って草食系なんです。」と聞き直り、どこか意欲的ではない感じでした。一方で「肉食女子」という言葉もあるようで、企業では女性の経営者も数多く活躍しているようです。

日本では企業や政府などで指導的な立場に占める女性の割合を全体の30%まで引き上げる目標を掲げていますが現状では10%だそうです。昨年は2020年東京での五輪開催が決定し、国家や大手企業などは7年後という目標を持つことになったようです。

わたしたち建設業界においても女性の活躍をおおいに期待したいところであります。

(総務委員会 石川 崇)